

会報

「ほーれん」

法蓮寺ホームページ <http://www.hourenji.or.jp/>

発行所

法蓮寺護持会

〒142-0064
品川区旗の台3-6-18
TEL 03-3781-4011
FAX 03-3782-4094

No.69

平成27年12月1日

「いのち」に感謝のお墓参り

住職 滝谷幸道

(塔)を供養すると、大きな功德があると
説かれています。

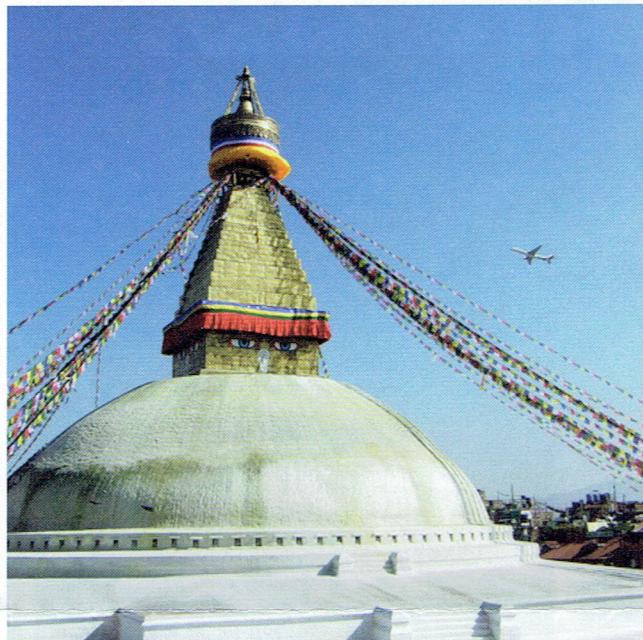
日蓮聖人に報恩の誠を捧げる「お会式」
を、今年も無事に終えることができまし
た。たくさんのご参拝、また、講中の皆
さまのご尽力に心より御礼申し上げます。

前号で、五重塔はお釈迦様の遺骨を納
めたストゥーパが変形したものであるこ
とをお話しました。ストゥーパは、今日
の「お墓」の原点です。

それではなぜ、私たちはお墓を建てて、
お参りするようになったのでしょうか。

前、お釈迦様が八十歳で
ご臨終の時、遺言をのこ
されました。葬儀の方法
を説かれ、「火葬のあと
ストゥーパをつくり、そ
こに花輪(お花)、香料
(お線香)、顔料(お水)
をささげて心を淨らかに
礼拝するならば、長いご
利益と幸せが起こるで
しょう」と。

そこで信者たちによつ
てお骨(仏舎利)は八つ



首都カトマンズの佛教寺院にそびえる、ネパール最大の
巨大仏塔(ストゥーパ)。ユネスコの世界遺産。

「ストゥーパ」は古代インドのサンスク
リット語で「卒塔婆」といい、鉢をふせ
たような型に土を盛り上げたものです。
遺された信者たちは、熱心に卒塔婆を供
養し礼拝はじめました。これが「卒塔
婆供養」(お墓の供養)のはじまりです。
法華経にはこの仏舎利やストゥーパ

に分けられ、その後二百年の間に八万四
千の塔廟、つまりストゥーパが建てられ
ました。

自分を基準に父母、祖父母…とさかの
ぼっていくと、わずか二十代で今の日本
の人口を超える数のご先祖さまが存在す
ることになります。この間に、たった一
人が欠けただけでも、「私」はこの世に存
在しません。今日の自分は、ご先祖さま
一人ひとりが懸命に生きてきた証なので
す。

す。

墓前では、故人の生涯を労い、ご縁に

感謝をして手を合わせましょう。お盆や
お彼岸に限らず、うれしい出来事の報告
や悩み事の告白、用事で近くまで来た時
などいつでもお参りください。急な時は、
お花やお供物がなくても、手を合わせる
だけでもいいのです。今生を精一杯生き
る私たちの姿に、ご先祖さまはどんなに
か喜ばれることでしょう。

今年も早いものであとひと月となりま
した。年の瀬に向けて気ぜわしいこの時
期、どうぞご自愛のほどをお祈りいたし
ます。

合掌

えしき 連綿と続く法蓮寺の「お会式」

信仰の継承をお祝いして



います。万灯奉納は
蓮寺を盛り上げ、郷
。メンバー募集中！

大聖人に教えを受けた人びとが、そのご恩に
対して心から感謝を申し上げる報恩法要、それ
がお会式です。

法蓮寺では今年も、本堂に紅白のお餅と野菜
や果物、酒などのお盛物を飾り、午後五時から
住職を導師に報恩法要 七時からは万灯練供養
を行い、近郷近在十四の万灯講中、約五百人に
万灯奉納をいただきました。

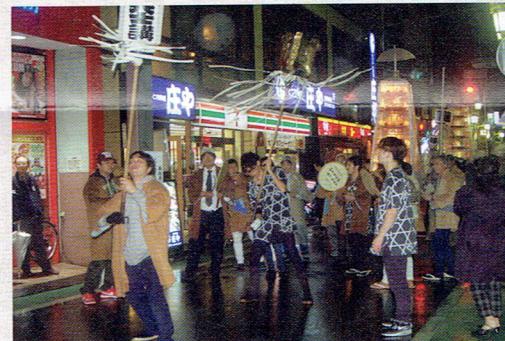
ご命日に故人を偲ぶ、いわば日蓮聖人のご法
事に「紅白の餅」をお飾りするのは、お会式が
法華經や日蓮聖人の教えを今に受け継ぐ悦びを
表すものであるからです。今年もお会式を迎
えられた"今年もお題目が唱えられている"と。
ですから、お会式では「おめでとうござります」
と挨拶を交わします。

日蓮聖人は今から約七百三十年前の弘安五年
(一一八二)十月十三日、現在の東京・池上でお
亡くなりになりました。日蓮宗の寺院では、十
月から十一月にかけて全国でお会式を行ってい
ます。

10月16日、日蓮聖人に感謝の気持ちをお伝えする「お会式」を
今年も盛大に當みました。あいにくの小雨となりましたが、商店
街の通りから踏切を越えて境内まで、明るく灯された万灯が連な
り、にぎやかなお囃子が桂原の町を包みました。



御宝前に手を合わせる参拝者の皆さん



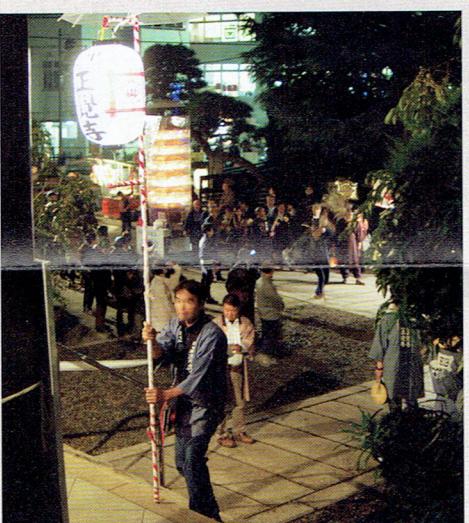
商店街の通りにも行列が連なりました



勇ましい姿に沿道から歓声があがりました

当山お会式

10月
16日 14講中 500人が来山



近隣寺院の万灯講中が次々と参拝に訪れました

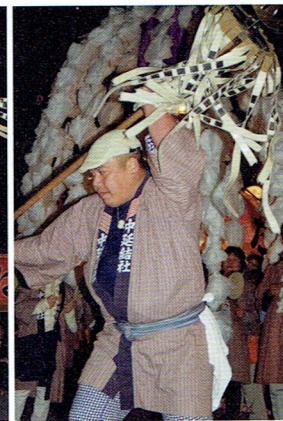


出店も軒を並べて大にぎわい

当山には万灯講中「中延結社」があります。

お会式の準備や当日の進行を行う縁の下の力持ち的存
在で、また、池上本門寺をはじめ近隣寺院のお会式に参
挙し万灯奉納を行っています。今年は九月から十一月に
かけて十六ヵ寺のお会式に伺うことができました。

11月12日、目黒区常圓寺参拝の様子を紹介します。



に参加したことによ来します

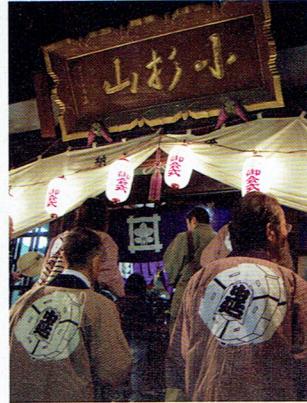


当山の万灯です。平成十四年に日蓮宗立教開宗七百年を記念して作りました。万灯の由来は仏さまに供える三つの代表（香・華・灯）の一つです。五重塔をかたどりたくさんのもしごで供養を表します。まわりをおおう紙の花は、日蓮聖人ご臨終の際に時ならず咲いた桜を表しています。太鼓や笛、鐘が奏でられる中、纏とともにぎやかに行進します。



中延結社には小学生から70代の約50人が参加。信仰行事でもあるとともに地域の伝統芸能です。土の文化財を守り育てる誇りを胸に活動しています。

「万灯参加は元気の源です」



締めくくりの読経です

心から感謝の誠を捧げました



笛や鐘の音色が行列をいつそう盛り上げます



力強い太鼓が鳴り響きます



▽中延結社

今年の万灯奉納記録

9月18日	池上本睦会	本行寺
10月7日	六士講	善慶寺
10月12日		池上本門寺
10月17日	御松庵結社	妙福寺
10月18日	妙正会	正覚寺
10月19日	向親会	本光寺
10月20日	同心会	立源寺
10月22日	鈴ヶ森結社	大経寺
10月25日	堤方結社	妙雲寺
10月26日	久が原結社	安詳寺
10月27日	池上結社	林昌寺
10月28日	市倉一心講	長勝寺
11月1日	徳持若睦	微妙庵
11月3日	一心講	摩耶寺
11月12日	衾結社	常圓寺
11月14日		藻原寺・妙弘寺



宙を勢いよく舞う
纏は行列の大きな見せ場です



小学生の女の子も、教わりながらたくましく振っています

纏は江戸町火消しが纏を手に池上のお会

来年は申年

日蓮聖人 を救つた 白猿の話

来年の干支は丙申。

「猿」はいうまでもなく、サル目（靈長類）のヒト以外の哺乳類の総称で、人間に一番近い種類の生物です。それだけに「猿真似」「猿に鳥帽子」といった、あまりよい意味に使われないことが多いようです。

日蓮聖人のご遺文で、猿は「獮猴を敬ふて帝釈となし『守護國家論』」、「癡猿が帝釈を笑ふに似たり」（『善無畏三藏鈔』）というような形で出てきます。猿・猿はいずれも猿のことです。これは、帝釈天の眷属である猿を、あたかも主の帝釈天であるかのように敬つたり、眷属たる猿が主の帝釈を笑うといった、理非や分限をわきまえない行為の喩えとしての引用です。

何かと分が悪いおさるさん。しかし、日蓮聖人の御一代記には、聖人をお救いしたヒーローをおさるが登場します。

松葉ヶ谷焼討の図
(植中直斎画「日蓮聖人絵伝」)

十七日の夜、日蓮聖人は、鎌倉の松葉ヶ谷のご草庵を念佛の信者たちに襲われ、焼き討ちされました。松葉ヶ谷法難といわれ、聖人の四大法難の最初のご法難です。

伝説によると、庚申の夜に聖人が帝釈天に法味を捧げていると、白い猿が現れ、しきりに聖人の衣の袖をひくので、猿のなすままに聖人は裏山の洞窟に入ります。すると間もなく、眼下のご草庵は猛火に包まれました。襲撃の翌朝、洞窟に猿たちがやってきて栗や木の実を聖人に差し上げ、このおかげで聖人は、三日間難をのがれたと伝えられています。

やつてきて栗や木の実を聖人に差し上げ、このおかげで聖人は、三日間難をのがれたと伝えられます。聖人をお救いしたという白猿が帝釈天に法味を捧げていると、白い猿が現れ、しきりに聖人の衣の袖をひくので、猿のなすままに聖人は裏山の洞窟に入ります。すると間もなく、眼下のご草庵は猛火に包まれました。襲撃の翌朝、洞窟に猿たちがやってきて栗や木の実を聖人に差し上げ、このおかげで聖人は、三日間難をのがれたと伝えられ

る。聖人をお救いしたという白猿たちは、法華經の行者を守護する帝釈天が遣わしたものともいわれます。この伝説は、法華經を信じて、お題目をお唱えすれば、どんな時でも必ずご加護があると、私たちに教えようとしているのかもしれません。

先日、京都大学などの研究グループが世話をする様子を確認したとのニュースがありました。自力で抱きついていられない赤ちゃん猿を、母親は片手で子どもの体を支えながら移動。十一歳離れた姉も子育てに加わり、姉が「子守」している間に母親が食事に出かける連携が見られたそうです。

以来、この地はお猿畠と呼ばれ、法性寺（神奈川県逗子市）が建立されました。山門の「猿島山」の扁額には白猿の彫刻があります。聖人と白猿の故事がしのばれます。

聖人をお救いしたという白猿たちは、法華經の行者を守護する帝釈天が遣わしたものともいわれます。この伝説は、法華經を信じて、お題目をお唱えすれば、どんな時でも必ずご加護があると、私たちに教えようとしているのかもしれません。

法蓮寺では桂原七福神の一つ、商売繁盛の「恵比寿」をお祀りしています。来年の正月は、一年の幸運を祈って「桂原七福神めぐり」に挑戦しませんか。



来年の行事予定

お誘い合わせて
お参りください

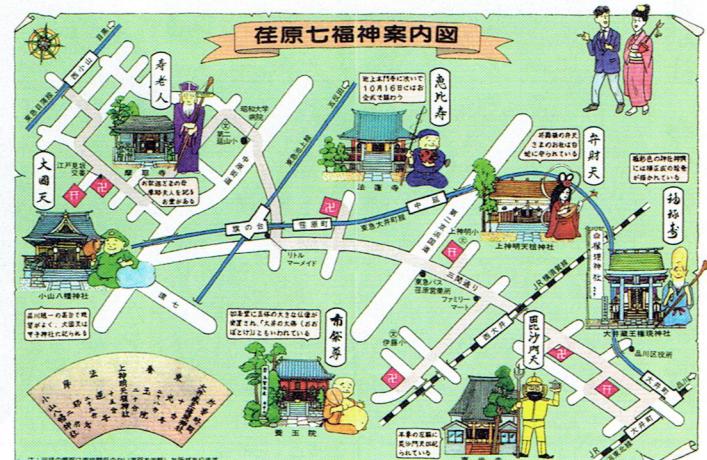


年頭初参り 1月1日

荏原七福神参り 1月1日～7日
(10時～16時)

春季彼岸法要 3月20日
(午後2時)

身延本山参拝と
しだれ桜の観賞 4月2・3日
(花まつり) (午後2時)



十二日信行会

法蓮寺では毎月12日午後6時から信行会を行っています。本堂で法華經を読んでお題目を唱え、法話や写經もあります。

日常から離れて、心穏やかに過ごす時間をもちませんか？ ふりがな付きのお経本を用意しています。お気軽にご参加ください。



七面山登詣

5月21・22日